















100V

ピンクイクラ ギガンテア

pinguicula gigantea

ムシトリスミシ属の中で最も大型に育る種類です。
体の直径は約30cmにもなります。一年に一度、株
の割には小さな花を咲かせます。

タヌキモ科 中央アメリカ産







アリ植物

アリ植物とは、自分の体の一部をアリが築きあげたような穴の中に運びこめて、アリと共に生活している(共生関係)植物のことです。

葉の大部分や茎の一部に穴があいており、その中は空洞や通路のようにしています。アリが好む蜜などを出している植物も多く、アリにとって居住の家と食べ物が得られる最高の環境です。一方アリ植物にとっては、アリの持ち運ぶ糞や食べかすなどが肥料となり、また、植物を食べに来た虫や動物などをアリが駆除してくれるという利益があります。

食虫植物とは違、た生き方も異なる植物なのです。



穴があいていてアリが住める場所に

一般的な食虫植物の育て方



種類	置き場所	水やり	植え替え	繁殖
サラセニア	年中屋外の日当たりの良い場所。氷点下5度℃でも特に問題はなく、加温すると調子を崩します。	生育期間中は毎日たっぷり与えるか、腰水方法で行います。冬場も乾燥させない事です。	1～2年に一度、冬場に行う。この時に根が確認できる株を分ける事ができます。	主に株分けで行う。実生もできるが、成株になるには3～4年かかります。
モウセンゴケ類	熱帯産を除き年中屋外。ただし、冬は極端に凍らない所。地上部を枯らして根が生き残る。梅雨時期の長雨には当てない。	年中腰水状態を保つ。特に乾燥には弱いので注意する。冬に地上部が消えても根が生きているので乾燥させない。	用土が古くなってきたら行います。また茎が徒長してくるタイプは埋め戻してやるとよい。	根伏せ、葉挿し、実生によります。ヨツマタ、アフリカナガバ、イトバ、アデラエなど
ハエトリソウ	年中屋外。夏場は50%程度の遮光が必要。夏は風通しの良い場所が好ましい。梅雨時期の長雨には当てない。	生育期間中は毎日与えるか、浅い腰水方法がよい。冬場は中央部分を残して休眠状態になるが、用土が乾けば与える。	冬場に行う。古い根や枯葉は取り除き新鮮な用土を用いる事。株分けも可能。水苔で株をくるんで植えて、鉢の底には砂利を入れます。	冬の植え替え時、主に株分けで行います。
ウツボカズラ	5月以降10月までは屋外の半日蔭に置きます。それ以降は最低温度10度以上の温室か室内で管理します。	夏場は朝か夕方に鉢と株全体に与える。袋に多少水が入ってもよい。温度の低い季節は控えめに。	概ね3年に一度くらい夏場がよい。根を傷めないように新しい水苔やビートモスなどで植える。	挿し木で行います。伸びすぎた枝を2、3節切って鹿沼土に挿すか、茶色の瓶に水を入れて漬けておく(水挿し)



